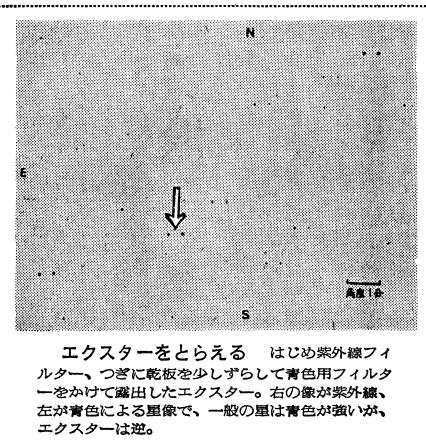
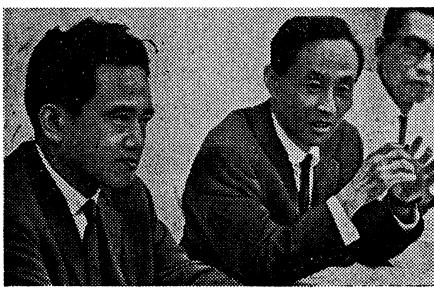


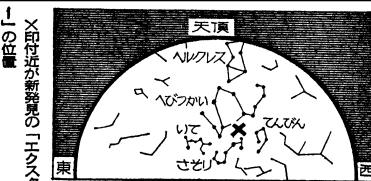
新天体「エクスター」



エクスターをとらえる はじめ紫外線フィルター、つぎに乾板を少しづらして青色用フィルターをかけて露出したエクスター。右の像が紫外線、左が青色による星像で、一般の星は青色が強いが、エクスターは青。



天体の新発見について発表する大沢・小田両教授



タ

宇宙科学に新紀元 のサソリ座 の12等星

協力 日米
岡山観測所で発見

超高温の クス線星

エニグマ解説が光学式望遠鏡で、ロッジ教授は「宇宙物理学上で最大の二大パント（重要事）」で、かむれガント（難解）を見た。と喜びの聲を打電してきた。東大・東洋大両教授は「とてもアマリカの協力して、この同時研究が終われたが、研究するといふのは、少しだけで、これを圖めて、この結果を、なんの見出しが、これこそ實在する、本がはじめて示されたわけだ。本の上での發見といつてもよい。これが本の始まるといふものだ。これが本の始まるといふものだ。」

れる。このような星のエネルギーが核融合によってできる、どんな爆発で生成がなされているかは、誰々が推測しているので、その機会を加える。」
〔造」アラスマーリ物質を形成している分子や原子さえも、超低温のためバラバラに分裂し、原子をつくるいる素粒子や、その周辺を回っている分子が、まことに、
極端なまでに細かい構造で、
や原子核を中心の研究を通じて、
その構造、固体、液体、
の物理的性質について、
の物理的性質について、
物質、と呼ばれるものになつた。

図1-9 X線星の当世登場を報じる記事(読賣新聞、1966年2月2日)

さそり座 X線源 Sco-Xに対応する光学天体を188cm反射望遠鏡で紫外フィルターと青フィルターを使い位置だけ少しずらして二重露出させる方法で発見した。91cm反射望遠鏡の光電測光と188cm反射望遠鏡の分光写真でX線星であることを確認した。